

視聴覚教育

NO. 440

発行日

30. 3. 1

編集・発行

岡崎市AVL

編集協力

現職研修委員会

学習情報部

これ知ってる!?

VR(バーチャルリアリティ)

「仮想現実」と訳される。現実では起こりえない世界や、体験が難しい世界をコンピュータで作り出し、知覚させる技術。あたかも仮想世界の中に自分が存在しているような感覚になれる。教育現場では、実験や実習場面等で、効果的な活用が考えられる。

この一年のあゆみ

学習情報指導員 村田 貴志

平昌冬季オリンピックの開会式。千台を超えるドローンが、空中に五輪のマークを描き、光のショーを繰り広げました。韓国政府はこの世界最大のイベントを「ICTオリンピック」と位置付け、5G・AI・VRなど様々な先端技術を投入し、運営を行ったそうです。今や、高度に発達した情報技術を積極的に活用していくことが、世界共通の目標となっているのです。

本年度、岡崎市においても様々な側面から教育の情報化が推進されました。次期学習指導要領に示される「プログラミング学習」の実践に、男川小学校と愛宕小学校が先導的に取り組みました。三学期に行われた公開授業では、延べ人数で百名を超える先生方が参観し、これから始まる新しい学びについて、最初の一步となるヒントを得ることができました。プログラミング学習に関しては、指導者がある趣旨を理解することが大切です。今後も各種研修等を通して、先生方をサポートしていきたいと考えます。

校務の情報化の側面では、昨年度導入された校務支援システム(OKタスク)の本格的な運用が始まりました。諸帳簿の作成はもろろんのこと、データを一元管理・蓄積・共有していくことで、いつでも必要な情報を活用することができ、校務の円滑な執行につながります。こうしたICTの活用が、現在課題となっている教員の多忙化解消に向けて、大きな役割を果たすことができればと、期待しています。

また、視聴覚ライブラリー主催「第15回ふるさと岡崎メディアアコンクール」には、市内外の教職員や小中高校生、一般の方々から、多くの作品が応募されました。映像作品やタブレットPCで活用するマルチメディア教材など多様で、先生や子供たちのコンテンツ制作能力の高さを感じました。こうした教材を活用する授業や、子供がICTを使って創造力を発揮する授業が、更に積極的に行われることを願っています。スキージャンプで銅メダルを獲得した高梨沙羅選手は「まだ金の器ではない」と、既に4年先への闘志を燃やしていました。来年度から、次期学習指導要領への移行期間が始まります。本年度の成果は、私たちがいよいよ一步を踏み出す、大きな活力になると確信しています。

視聴覚教育あれこれ!!

●平成29年度 愛知県自作視聴覚教材コンクール (入選8作品のうち6作品が岡崎市から出品した作品でした)

●最優秀賞・愛知県教育委員会賞

『消防士24時』 学校教育部門・マルチメディア教材

鈴木広樹(額田中) 藤淵俊旭(矢北小) 中山美奈子(竜海中)

天野泰国(福岡中) 井上清美(緑丘小) 成田道俊(竜海中)

近藤雄一(六南小)

●優秀賞

『きみは大気王をイメージできるか』

服部将也(梅園小) 杉山康子(六北小) 太田尚志(北中)

徳尚和(六南小) 矢部貴司(岩津中) 森正吉(城北中)

山口秀樹(竜美丘小)

『わたしたちの伊賀川』

成瀬正和(羽根小) 岩川皓司(葵中) 峯澤泰季(南中)

大塚真悟(梅園小) 神野裕美(井田小) 空中健一(岩津小)

牧野さとみ(北中) 長谷川威全(羽根小)

●優良賞

『過疎化と鳥おこし』 学校教育部門・ビデオ教材

赤堀大知(竜海中) 鈴木一史(竜海中) 高瀬玲子(愛宕小)

佐藤雄太(広幡小) 石谷遼一(生平小) 松浦圭祐(根石小)

青山当知(北中) 佐渡英彰(矢北小)

●佳作

『自動車工業を支えるトラック』 工場から工場へ』

水野利明(矢作中) 荒井奈穂子(岩津小) 森綾子(竜海中)

田中章太郎(六名小) 天野圭祐(東海中) 鈴木彩水(岩津小)

岡秀之(矢作中) 村田貴志(井田小)

『とびばこマスターになろう』

学校教育部門・マルチメディア教材

大西純平(大樹寺小)

●第11回アジア国際子供映画祭

●中部・北陸ブロック大会

大野市長賞 『先生って、大変!』(愛宕小)

結の故郷賞 『ぼくたち わたしたちの先生』

(六ツ美北部小)

『担任の先生のひみつ』(愛宕小)

『古川先生ありがとう』(愛宕小)

●第2回日本こども映画コンクール

審査員特別賞 『中学生がバカっこいいこと

やってみた』 (北中学校メディア部)

実践報告Ⅱ

英語科でのタブレットPCの利用

甲山中学校 杉本 抄智代

タブレットPCが導入されて4年目となる。個別学習に柔軟に対応できるタブレットPCの活用は、「正しい発音の習得」のための有効な手段でいると考え、英語科の授業に取り入れた。

まずは、発音練習での活用だ。二股に分かれるイヤホンジャック用のソケットを購入し、二人で同時に同じ音を聴けるようにすることで、ペアで発音練習を行った。こうすることで、タブレットPCの台数が少なくても授業で活用することができる。また、手本を参考にして発音した互いの英語をペアで聞き合うことで、正しい発音ができたか評価できる。「伝わる英語」を意識して学習することができた。



次に、アプリ「ボイスチェック」を利用し、発音を録音してチェックした。グループで聞き合うことで、生徒たちはペアでの学習よりもたくさんアドバイスをし合うことができた。さらに、自分の発音を客観的に聴くことができることから、正しい発音ができているかどうか、自己評価する力を伸ばすこともできた。

かつてはLL教室へ行かなければできなかった学習が、タブレットPCを使うことで、普通教室でも行えるようになった。生徒たちに、自分の発音がよくなっていることを実感させ、発音練習に対する意欲を高められる授業を、今後も展開していきたい。

レッツ・トライ！ICTⅡ

今回紹介する機能

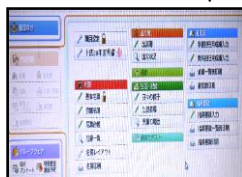
「OKタスク 要録印刷」

視聴覚・情報教育の手引き P.42 参照。

一昔前まで、要録は全て手書きだった。書き間違いや、印の押し間違いは全て訂正印で修正した。しかし、昨年からOKタスクが導入され、要録の印刷が劇的に変わった。データが蓄積されることで、帳簿の作成が容易となり、かつてのような間違いや修正の必要が、ほとんどなくなった。

★入力時のポイント

それぞれの項目を入力していくが、「入力完了」をクリックすると役職の先生に解除してもらうまでは編集ができなくなるので、注意が必要。こまめに「保存」したい。



★印刷時のポイント

一覧表を印刷するときは、「指導要録一覧表印刷」をクリックし、クラスを選択する。「一覧表」から任意の一览表をクリックする。

○要録印刷について

- ① 「指導要録印刷」をクリックする。
- ② クラスを選択し、「児童・生徒」にて、印刷対象児童（生徒）をクリックする。
- ③ 「印刷するページ」にて、「指導に関する記録1」「2」にチェックする。
- ④ プリンタを選択し、「両面印刷する」にチェックする。

最後には、印刷したものを新たな目で点検する。間違いのない要録作成には欠かせない作業である。

(下山小学校 学習情報主任 今泉美貴子)

ライブライブラリーだよ

新規購入機材の紹介

今回紹介のマルチフォーマット・ビデオスイッチャーは、マルチフォーマット・ビデオスイッチャー（ローランドV-40HD）は映像の切り替えや合成ができる視聴覚機器です。HDMI端子やRGB端子を備え、ビデオカメラ、パソコン等様々な映像機器と接続が可能です。学校行事で映像を使った演出をしたい、複数の映像を交互に出したい、複数の映像を交互に出したい、そんな時にはこの機器を使ってみてはいかがでしょうか。興味のある方は、視聴覚ライブライブラリーへお問い合わせください。



新規購入教材の紹介

11月号に引き続き、平成29年度に新規購入したDVD教材の一部を紹介します。各教材の内容解説、視聴時間等詳細は視聴覚ライブライブラリーHPで確認できます。

・なぜ防げないの！地球温暖化

対象 小学生高学年

・気象災害から身を守ろう！

対象 小学生高学年

・台風・大雨・落雷・土砂災害・竜巻

対象 小学生中・高学年

・異常気象 地球で今、何が：

対象 一般

地球温暖化対策を考える

対象 一般

